

症状マネジメント記録用紙 NO. 1 (記入例)

月 日

患者氏名	A 氏	年齢	62才	性別	<input checked="" type="radio"/> 男・女
------	-----	----	-----	----	--------------------------------------

病名	急性骨髄性白血病
----	----------

症状の定義：看護活動その1：症状の定義を明らかにする。
ガイドブックP.5の定義を記入し、定義を共有する。

症状のメカニズムと出現形態：

看護活動その2：症状のメカニズムと出現形態を理解する。

病気のステージや経過、治療内容についても記入する。
図を用いてもよい

[例]

A氏の口腔粘膜炎は、①化学療法により細胞内に発生した活性酸素が細胞の損傷を引き起こし、口腔粘膜の損傷が起こっている。また、骨髄抑制が生じており、二次感染を引き起こしている。さらに、②口腔粘膜炎より発痛物質が遊離され痛覚受容体を刺激し、口腔内の痛みが生じている。

使用している薬剤

- ①カロナール1200mg (400mg×3回)
- ②モルペス20mg (10mg×2回)
- ③レスキュー：オプソ5mg/回

治療内容

- ①化学療法

症状マネジメント記録用紙 NO. 2 (記入例)

月 日

患者氏名： _____

<p style="text-align: center;">【体験】</p> <p>看護活動その3： 患者の体験（認知、反応、評価）と意味を理解する</p> <p style="text-align: center;">患者の言葉、看護師が観察したことを記入する</p> <p>【例】 月/日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口腔粘膜炎の部位 ・ 口腔粘膜炎による痛みの程度（スケールを用いてもよい） ・ どんな症状か（OAGを用いてもよい） ・ いつ頃から症状が現れたか ・ 症状が出たらどのくらい長く続くか ・ どのようなときに症状が強くなるか ・ どのようにすると症状が楽になるか ・ 口腔粘膜炎の原因をどのように考えているか、どのように説明を受けたか ・ 口腔粘膜炎のためにできなくなること、困ることはあるか（食事、睡眠、清潔、心理的变化など）症状があるときの患者の表情、動作、血液データなどの観察項目 <p style="text-align: right;">など</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分析</p> <p>認知：表現の多さ、言葉の豊かさ、内容の種類</p> <p>評価：症状と原因（疾患・生活行動など）を結びつけて考えているか、症状の強度・頻度・持続時間を評価しているか、症状の増強・軽減因子を評価しているか、薬剤の効果を評価しているか</p> <p>反応：症状の影響が生活行動に現れているか、症状によって情緒的な変化が起きているか、両者のバランス</p> <p>意味：症状は患者にとって何を意味しているか</p> </div>	<p style="text-align: center;">【方略】</p> <p>患者： 看護活動その4： 症状マネジメントの方略を明らかにする</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分析：自分が症状マネジメントの主役だと思っているか、症状コントロールの可能性をどのように考えているか（症状はとれるものと考えているか）</p> <p>積極的か、消極的か、目標を持っているか、これまでの体験と関連しているか、症状の機序に矛盾しない方法であるか</p> </div> <p>家族：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分析：患者の症状マネジメントに積極的か消極的か、症状マネジメントの目標をどのように考えているか</p> </div> <p>医師：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分析：医師の症状に対する評価</p> <p>患者の症状をどのように捉えているか、目標をどこにおいているか、積極的にマネジメントしようとしているか、効果的な方法をとっているか（医師の知識、実行力）</p> </div> <p>看護師：</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>分析：看護師の症状に対する評価</p> <p>患者の症状をどのように捉えているか、目標をどこにおいているか、症状に関するディスカッションがされているか、積極的にマネジメントしようとしているか、効果的な方法をとっているか</p> </div> <p>その他：薬剤師、歯科衛生士などの方略 ヘルスケアシステム</p>
<p>【現在の状態】</p> <p>看護活動その5：体験と方略の結果を明らかにし、セルフケア能力の状態でご該当するレベルを判断する</p> <p>症状の状態：症状はコントロールされているか（スケールを用いてもよい）</p> <p>機能の状態（PS）：日常生活行動、臓器の機能とその統合性（栄養、脳神経、呼吸、循環機能など）</p> <p>QOLの状態：日常性活の障害、自己価値観の低下、無力感などの情緒の状態</p> <p>セルフケアレベルの状態： レベルⅠ、 レベルⅡ、 レベルⅢ、 レベルⅣ</p>	

症状マネジメント記録用紙 NO. 3 (記入例)

月 日

患者氏名：

【看護師の行う方略を導き出すためのアセスメント】	
<ul style="list-style-type: none"> 潜在的なセルフケア能力も含めて、患者の能力を査定する 患者の現在のセルフケアレベル（レベルⅠ、レベルⅡ、レベルⅢ、レベルⅣ） 患者が習得すべき必要な知識、必要な技術、必要な看護サポートの方針を立てる 	
看護師の行う方略(計画)	実施と患者の反応
看護活動その6：看護師が提供する知識・技術・サポートの内容を決定し実施する	
() さんが習得することが必要な知識 () さんに以下の必要な知識を提供する 【例】 症状は患者が主体となってマネジメントしていくものであること（患者の役割、医療者の役割） 症状をもっと軽減できる可能性があること 症状を我慢することによって生じる弊害 症状の機序 薬について(効果、副作用、副作用のコントロール、飲み方、増量が可能)	実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する 【例】 月/日 口腔粘膜炎が現れやすい時期について、化学療法による白血球の減少との関連性をパンフレットの図を用いて説明した 食事前や口腔ケア前に鎮痛剤を使用すると、痛みが楽に口腔ケアができることを説明した
() さんが習得することが必要な技術 () さんに以下の必要な技術を習得してもらう 【例】 ・口腔内を観察する技術 ・口腔内の変化に気付く技術 ・症状を医療者に表現する技術。医師に相談する技術。 ・援助が必要ときに頼む技術。 ・口腔ケアの方法(保湿剤・歯ブラシの選び方、ブラッシングの方法など) ・生活の中に取り入れる工夫。 ・痛みを軽減する方法（鎮痛剤の効果、鎮痛剤のはいつたうがい、食事の注意点など） ・効果的でない方法、誤った方法の修正。患者が実施しやすいように修正する。	実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する 【例】 月/日 ・体がだるく洗面所に行くことが面倒で、口腔ケアをしていなかった。椅子を設置し、座って歯磨きをしてもよいことや、だるさが強い時は医療者に助けてもらうよう依頼することを提案した 月/日 →「セッティングしてもらうとできる」「椅子があると楽に歯磨きができる」と口腔ケアに取り組めるようになった。
() さんに必要な看護サポート () さんに以下の必要な看護サポートを提供する 【例】 ・〇〇さんの症状をとりたいと思っていることを伝える。そのためにどのようなことをしているのかを伝える。一緒に対処していく姿勢を示す。 ・〇〇さんの症状がとれるとうれしいことを伝える。 ・表現してくれてよくわかった、表現してくれることで薬剤の評価がやりやすくなったということを伝える。 ・患者と医療者の協力で効果が出たことを伝える。 ・表現できていることを評価する。 ・患者にマネジメントの能力があることを伝える。 ・自分なりにコントロールしようとしていることを評価する。 ・とっている方略が理にかなっていることを評価する。 ・安楽への援助、日常生活の援助 ・症状のアセスメント ・気持ちを聴きたいと思っていることを伝える。	実際に実施したことと患者の反応を（経時的に）記入する 【例】 月/日 ・自分なりに工夫した方略がとれており、メカニズムから考えても効果的な方略であることを伝えた。 →「あれでいいの不安だった。そう言ってもらえると安心した。」
【改善された結果】	
症状の変化： 機能の変化（PS）： QOLの変化： セルフケアレベルの変化：	看護活動その7：活動による効果を測定する